

# 『ありがとうシェアリング—大学生が地域の困りごとを「ありがとう」に変える』

NPO 法人オリヅルプロジェクト 理事 坂村圭

## 1. はじめに

### 1-1. 活動実施の経緯とこれまでの課題

石川県白山市鶴来地区は、霊峰白山と手取川の自然の恵みをもとに、白山比咩神社を中心とした歴史と伝統文化を育み発展したまちである。しかし、近年では、人口減少や高齢化率の上昇に悩まされており<sup>1</sup>、この結果として、地域の文化継承、自警団への参加率の減少などの日常的な暮らしの継続に不安を抱えている。

この鶴来地区で、地域資源の活用と新たな連帯の創出をもとに、まちの活性化に取り組む団体が、NPO 法人オリヅルプロジェクトである。本団体は、鶴来地区において、事業者、大学教員、大学生との有機的な連携をもとに 2018 年から活動を開始し、これまでに空き家の解消、学生シェアハウスの運営、地域イベントの実施、地域コミュニティ活動への参加などに取り組んできた。特に、本活動に参加する学生の一部は、鶴来地区の学生シェアハウスに移住して、地域の祭りや町内会集まりへ参加するなど、地域の内部から地域課題の解決に貢献している。また、これまでに学生シェアハウスを大学生や地域住民に開放することで、延べ 10 か国以上 200 名以上の人々を新たに鶴来地区に呼び込んできた。

このように、NPO 法人オリヅルプロジェクトは、地域事業者と大学生の共同によって、先駆的に鶴来地区のまちづくりに取り組んでいるが、その活動継続に課題がないわけではない。これまでに実施した事業は、単発・散発のイベントが多く、持続的な活動の継続に不安を抱えていた。また、活動の更なる展開に向けて、より多くの人々の参加や共感、さらには地域住民と大学生とのより密なつながりの創出が必要な状況にあった。

このような経緯から、(一社)北陸地域づくり協会の助成のもとで、本団体は「ありがとうシェアリング」という新たな活動を開始した。この活動の成果目標は、人と人、人と地域のつながりを育み、持続的に地域活性化の取り組みを継続するための仕組み・プラットフォームを検討し、団体が抱える既存の課題の解決に取り組むことである。次節以降では、本取り組みの具体的な目的、計画について、詳細に述べていく。

### 1-2. 本活動の目的と概要

新たに取り組む活動である、「ありがとうシェアリング」とは、鶴来地区のちょっとした困りごとを、大学生と一緒に収集、解決して、「ありがとう」が行き交う日常を作り出すことを目的とした取り組みである。これまで、大学が近くにあるだけでは生まれてこなかった地域と大学との相互扶助の関係を積極的に生み出し、地域住民がいつまでも安心して暮らせる日常と、大学生が卒業後も第二の故郷として鶴来に想いをはせる状況を生み出すこと

---

<sup>1</sup> 白山市統計書(2020)によると、鶴来地区の人口は、2001 年の 4,436 人から 2019 年に 3,962 人へと減少し、高齢化率は 33.3%となっている。

を目標としている。

具体的な地域の困りごとには、寺社仏閣の清掃活動、山林の維持管理、お祭りの手伝いなどの地域維持管理に関するものと、新たな店舗の開業支援や子供の遊び場づくりなどの個人的な関心から生まれるものが含まれる。このような地域の困りごとを、その解決やサポートを行える人材（大学生等）とマッチングして、地域内外の新たな人のつながりを生み出しながら、一つ一つ解消していくことが、本活動のねらいである。

### 1-3. 活動の計画について

上記の活動の達成に向けて、助成事業の2年間の目標を、取り組みを継続的にこなすための環境の構築と、実際に事業実施に取り組むことに設定した。具体的な活動計画とその内容は、以下の3点にまとめられる。

#### 1) 「ありがとうシェアリング」の持続的な活動に向けた環境整備

地域の困りごとの収集と課題解決を行う大学生とのマッチングを行い、持続的に地域課題の解決を行える体制を確立する。具体的には、本活動の周知と協力者の募集のために、「困りごとカード」の発行、ホームページの開設を行う。また、解決を試みる課題の検討やマッチングは、zoom 会議を基本として、月に一回定期的に開催する。

#### 2) 事業の試験的な実施と周知

試験的に地域の困りごとの解決を本団体メンバーで行い、「ありがとうシェアリング」の取り組みを地域住民に周知する。具体的には、鶴来地区の良源寺の清掃活動を大学生と共にを行う。また、これらの活動成果を、地域住民や小学校の教員に伝達し、今後の活動への理解や参加を求める。

#### 3) 「ありがとうシェアリング」の本格的な実施

月に1回程度の頻度で、大学生と一緒に地域の困りごとを解決する。課題解決に関するイベントやワークショップの実施時には、本団体メンバーが付き添い記録をとる。

なお、上記の活動計画は、コロナ禍での目的達成のために、当初の計画を大幅に修正した結果である。当初の計画では、既に NPO 法人オリヅルプロジェクトが所有している空き店舗空間をリノベーションして、その一部を地域住民と大学生が交流するスペースとして活用し、困りごとの収集やマッチングを行う予定であった。しかし、感染症の状況を鑑みて、不特定多数の地域住民との対面接触を前提としたマッチングが困難だと判断し、交流スペースの設置を諦め、その代わりに近隣住民、他活動団体、知人に個別に聞き込みを行い、地域の困りごとを収集することとした。また、活動への参加者を募ることは、ウェブ媒体での広報で代替し、打ち合わせや個別相談は zoom を活用して行うこととしている。このように、活動をすべての人に開いて広く展開することはできなくなってしまったが、そのかわりに特定の地域の人と継続的に交流をすることで、当初に設定した活動の試行的な実施を試みている。

## 2. 活動内容とその成果

本章では、2020年4月から2022年3月の間に、実際に行った活動の内容とその成果について記述する。

### 2-1. 「ありがとうシェアリング」の持続的な活動に向けた環境整備の成果

地域の困りごとを集めるために「困りごとカード」をデザインして地域住民に配布した(写真1)。このカードは、将来的には困りごとを壁に掲示して並べられるようにデザインしている。なお、その外面には団体のホームページアドレスなども記載してあり、パンフレット代わりに活用することもできる。

また、本団体の活動周知と地域の困りごとの解決に参加してくれる人の募集を目的に、ホームページを新規開設して情報発信を行った。このようなウェブ媒体が整備できたことで、地域住民からの信頼感や理解が獲得でき、後述するような、新聞やテレビなどでの活動掲載につながったと考えている。

○ホームページ：<https://orizuru-project.com>

上記の環境整備の効果もあり、月に一回の頻度で開催する「ありがとうシェアリング」の実施検討会議(zoom開催)には、団体メンバー(鶴来の事業者)6名、大学生(北陸先端科学技術大学院、金沢大学など)5名程度、鶴来活性化に興味のある若者5名程度の、計15名程度が常時参加している。このような活動を行うコミュニティが成長したことも大きな成果だと考えている。また、本団体がNPO法人格を取得したことも、持続的な活動の実施に好影響を与えている。NPOとして活動を周知することで、地域の既存団体(町内会、まちづくり組織など)とのつながりが新たに創出できた。



写真1：困りごとカード

### 2-2. 事業の試験的な実施と周知の成果

事業の試験的な実施として、良源寺の清掃活動を2020年4月に行った。この活動のきっかけは、本団体メンバーの住職への困りごとの聞き取りであった。主に北陸先端科学技術大学院大学の学生に呼びかけを行い、当日は3名の大学生、3名の団体メンバーが清掃活動に参加した。小規模の活動の試験的な実施ではあったが、参加する大学生の活動への理解を促進し、地域住民や小学校教員などへの広報や周知が円滑に進むようになったと考えている。

### 2-3. 「ありがとうシェアリング」の本格的な実施の成果

#### ①鶴来別院の清掃活動の実施

鶴来別院は大きな屋根や梁が特徴的な街の中心部に位置する寺院である。ここで、住職から寺社境内の清掃の困りごとの依頼を受けて、「ありがとうシェアリング」の一環として大学生と清掃活動を行った(写真2, 3)。当日は、清掃活動だけでなく、鶴来別院の内部の説明を行ってくださり、大学生の鶴来に対する理解も深まった。また、この活動をきっかけに、本活動のイベント実施時に、会場として鶴来別院を無料で貸し出ししていただけるなど、新たな人のつながりを創出することができた。

## ②女性起業家の新規店舗開業支援

近年は、若手起業家が増加してきているが、店舗開業のノウハウや、ある程度まとまった開業資金がない場合には、新規店舗を開業することは困難な状況にある。このような困りごとを聞きつけて、本団体メンバーが中心となって開業支援を行ったのが、鶴来地区にオープンした「Happiness」というアイス屋さんである。この店舗は、本団体が運営する学生シェアハウスの一部（元の店舗スペース）をリノベーションして、月25,000円で場所を賃貸することで開業した<sup>2</sup>。なお、リノベーションの作業には、大学生も参加して、外構整備の手伝いを行っている（写真4、5）。また、店舗運営などに関して、本団体メンバーが相談に乗るなど、新規店舗開業の経済的、心理的ハードルを下げるための支援も行った。現在、「Happiness」には多くのお客さんが訪れており、鶴来地区の新たな名所となっている。

## ③舟岡山の清掃活動への参加と「舟岡山城を守る会」の活動補助

舟岡山は、戦国時代の石垣の曲輪（くるわ）が残る、鶴来の大切な地域資源のひとつである。ここで、その整備保存活用を行う団体が、「舟岡山城を守る会」だ。この団体は、登山道の草刈りや周辺の整備を行うことで地域資源整備に努めてきていたが、近年はその人手が不足しており、活動補助を依頼されることとなった。これまでに3回、「ありがとうシェアリング」の事業として、本団体メンバーや大学生が草刈り活動に参加している（写真6）。

この活動支援がきっかけとなり、現在は「舟岡山城を守る会」のこれからの地域活動の展開の検討を、本団体メンバーが協力して行っている。現在検討していることは、舟岡山のパンフレット作成、案内板の設置、ガイド企画などである。これらの実施に関して再度の依頼があった場合には、「ありがとうシェアリング」としての実施を行いたいと考えている。



写真2：別院清掃



写真3：別院の案内を受ける様子



写真4：大学生とのリノベーション



写真5：Happinessの様子



写真6：舟岡山の清掃活動の様子

<sup>2</sup> リノベーション費用は「Happiness」の負担で開業をしている。

## 2-4. 大学生による自主的な「子供の地域学習イベント」の開催への展開

大学生と共に「ありがとうシェアリング」を実施していくうちに、彼らも主体的に地域づくり活動を企画・実施したいという要望を受けるようになった。そこで、本団体が大学生の活動を支援する形で、新たなまちづくり活動の企画をスタートした。テーマとしたことは、地域からの要望も多かった、「子供の遊び場の創出」である。定例で行っていた会議の場で、大学生に何度も企画プレゼンをしていただき、その発想力を活かして、「子供が鶴来のまちを遊びながら学習するためのイベント」を実施することを決定した。なお、本団体が協力したことは、企画に対するコンサルティング、イベントの広報（小学生の集客）、イベント実施補助、イベント開催費用の補助などである。

実際に、大学生による子供向けのイベントは、全3回が鶴来別院で実施され、最後に、地域向けの報告会も開催された（写真7，8，9）。イベントでは、子供たちが鶴来のまちを楽しみながら学習するための遊具を開発することを目的に、まちあるきの開催や、七ヶ用水をモデルとした遊具の遊び体験、鶴来をモデルとしたすごろくの遊び体験、鶴来の名所のイラスト塗り絵などが行われた。なお、これらのイベントで使用された、鶴来に関する遊具は、すべて大学生がはじめからその内容を考えて制作したものである。イベントには、毎回5～10名程度の小学生が参加し、その開催のために大学生が10名弱準備を行っていた。

大学生は、この活動を行っていく過程で、任意団体「ココノコ」を設立している。これらの活動は、「Matching HUB HOKURIKU 2021 M-BIP」で「システムサポート賞」を受賞したほか、新聞やテレビで放送されるなど、大きな反響を呼んだ。

このように、「ありがとうシェアリング」をきっかけに、その枠組みを超えて、大学生が自主的に地域活動を実施するという成果が得られている。大学生の地域活動の企画コンサルティングは、来年度以降も継続的に実施していく予定である。



写真7：子供とのまち歩きの様子



写真8：子供とのゲームの様子



写真9：大学生が作ったゲーム

## 3. まとめ

### 3-1. 本活動のまとめ

この2年間を通じて、「ありがとうシェアリング」を行うための環境整備と本格的な活動の開始を行うことができた。これらの活動の成果は、以下の3点にまとめることができる。

#### 1) 鶴来地区のちょっとした困りごとを話し合う場の創出

本活動のなかでは、清掃活動や子供の遊び支援など、これまであまり注目されてこなかつ

た、地域のちょっとした困りごとの解決に着目してきた。このような困りごとの解決には大きなインパクトはないと思われるかもしれないが、地域のなかでちょっとした困りごとを簡単に相談できるような状況を作っていくことが、より住みよいまちへと成長していくためにとても重要なことだと考えている。この意味で、本活動を開始して、様々な人からの相談を受けられたことには一定の成果があっただろう。

## 2) 大学生の自己実現の場の提供

本活動には、多くの大学生が困りごとの解決に協力してくださった。また、大学生の多くには、単に活動に参加するだけではなくて、自ら企画を考え、試行錯誤しながら、新たな活動を実施していただいた。大学生の背中を少し押してあげることで、彼らが自分の考えを表現し、他者から評価を受けるという体験を生み出したことは、本活動の大きな成果のひとつであっただろう。

## 3) 地域住民と大学生のつながりの創出

これまで地域住民と大学生が話し合いを行うことや、一緒に活動を行う機会は、非常に限られていた。しかし、本団体がハブとなり、地域住民と大学生がかかわり続けたことで、少しずつ信頼関係が生まれていき、最終的には、団体メンバーを介さないでも大学生が地域住民と関われるようになった。このように、地域住民と大学生の日常的な接触や情報交換の機会を創出していき、お互いが理解し、信頼しあえるコミュニティを育み続けていきたい。

## 3-2. 今後の展望

現在、「ありがとうシェアリング」の活動の一環として、企画を進めているのが「鶴来のお土産づくり」である。これは、地域住民から鶴来らしさを活かして気軽に購入できるお土産があまりないという声を聞いたことで取り組みはじめたものである。これまでに、鶴来の発酵文化を活かして、伝統菓子「辻占」の新たな商品化の検討を開始している。本企画では、鶴来の和菓子屋や酒蔵のオーナーに商品開発への協力を仰いでおり、ここでも、新たな地域のつながりの創出に挑戦している状況にある。

活動を振り返ってみると、コロナ禍という制約があったことで、活動内容の変更を余儀なくされた部分は少なくなかったが、その代わりに、特定の地域の方々と密に関係づくりが行えたのではないかと考えている。今までに築いてきたコミュニティを活用して継続的な活動を実施していくとともに、感染症の状況が改善した際には、より多くの人に参加できるイベントの実施へと舵を切っていきたい。また、本活動を通じての予想外の収穫は、大学生による自主的なまちづくり活動の開始であった。このような新たな活動の展開も積極的に推し進めていきたい。

最後になるが、このような活動の展開が行えたのは、(一社)北陸地域づくり協会からの助成があったためだと強く思っている。ここに深く感謝の意を申し上げたい。